

おわりに

～ 京都市廃棄物減量等推進審議会委員の皆様から ～

【上流対策の推進】

○ 買い物袋持参

買い物袋の持参の取組を進めるためには、事業者は有料化等を通してレジ袋の削減に積極的に取り組み、市民はそうした事業者を買い支え、京都市は効果的な普及啓発を行うなど関係諸団体が協働して取り組むことを定めたマイバッグ等の持参促進及びレジ袋の削減等に関する自主協定の更なる拡大が必要だと思えます。現在の協定参加事業者は大型店が中心であるので、中小スーパー等を巻き込んだ協定拡大が必要だと思えます。

○ 有料指定袋制について

地球温暖化防止の取組の必要性が報じられる中、京都市における有料指定袋制の導入は、こうした地球規模の動きに対応したことが、市民の心に受け入れられた要因と思えます。

今後とも、市民のごみ減量意識の持続、向上を図るためには、町内会の回覧板等の地域単位の取組を活用したきめの細かい普及啓発の実施や将来を担う子供を対象にした環境教育の充実を図っていくことが必要だと思えます。

【分別・リサイクルの拡大】

プラスチック製容器包装の分別収集がスタートしましたが、分別の意識がまだ不十分であるように思えます。分別マナーの徹底を図るためには、市民しんぶん等を利用して、対象品目の明示やどのような過程でどうリサイクルされているのかをもっと分かりやすく市民に普及啓発をするとともに、収集場所の増加等を図ることで分別・リサイクルへの協力を促進する必要があると思えます。

また、手軽で誰でも参加できるようなリサイクルシステムの構築も必要であると思えます。

【事業系ごみ減量対策について】

市民による自主的取組に比べて、事業者による自主的取組の進捗が遅れているように思えます。お互いに足並みを揃えてこそ、ごみ減量に大きな成果を見ることができると思えます。特にプラスチック製容器などは事業者も便利さで売るのでなく、ごみ減量を優先した取組を図ることが必要だと感じました。

また、事業系ごみの減量には、製造業のみならず飲食業、小売業、ホテル・旅館業などあらゆる分野の事業者において、KESの取得をはじめとする環境に配慮した事業活動を図ることが重要であると思えます。

【年次報告書】

進捗管理をきちんと目に見える形で行っていることは高く評価できるが、少々項目が多すぎて読みにくいと思えます。一覧表形式で数値と達成度だけが分かるような形に工夫するなどの取組も必要ではないでしょうか。

市民向けにこの年次報告書の分かりやすくまとめた要約版を作成し、「京のごみ戦略」の進捗状況を積極的に発信してほしい。